ティーチング・ポートフォリオ

大学名：大手前大学　所属：国際看護学部　名前：熊谷 桂子　作成日：2024 年 12 月 28 日

１．教育の責任

固有のニードを持つ様々な人を看護の対象者として全人的に理解し、豊富な知識と根拠に基づく技術および適切な態度で最適なケアを実践できる看護専門職者を育成する。

２．教育の理念

建学の精神である"STUDY FOR LIFE"の通り、看護専門職者としての資質向上のため、生涯にわたり真摯に学び続けることのできる学生を育成したいと考えている。また、地域社会、国際社会に貢献できるよう確かな知識と技術をもって質の高いケアを実践し、対象者に誠実に向き合い、ともに成長できる感性豊かな看護専門職者を育てることに努めている。

３．教育の方法

■担当科目

基礎看護技術Ⅰ～Ⅳ、基礎看護方法論Ⅰ、看護過程、基礎看護学実習Ⅰ～Ⅲ、統合実習、看護研究Ⅱ

■教育の目的と目標

医療現場に身を投じることを想定し、小人数グループ単位の演習において、看護実践のための基本的な看護援助技術の修得を目指す。対象者の状況設定に応じ、どのような手法をもってケアを実践すべきか考え、意見交換し、問題解決能力を獲得する。また、看護におけるヘルスアセスメントの目的と意義を理解し、対象者の健康状態を身体的・心理的・社会的側面から総合的にアセスメントするための基礎知識と技術の修得を目指す。講義ではワークを取り入れ、仲間の考えも参考にしながら対象者理解のための思考基盤能力を養う。

■教育実践

授業ではデジタルテキストを中心に、様々な参考テキストを集約して作成した資料を配布し、学生の理解を促している。看護技術の導入となる「基礎看護技術Ⅰ」では、看護者に求められる態度育成を教授すると同時に、看護技術の根拠の理解を重点的に指導し、自らが考え、演習で実施する機会を設けている。また、後続する科目「基礎看護技術Ⅱ～Ⅳ」で学びを応用できるよう、基本の修得に重点を置き、授業を構成している。「基礎看護方法論Ⅰ」では、春学期で基礎的な知識・技術・思考能力が身についた状況での履修となる。この科目では対象理解のための知識習得と正しい観察手法の獲得が必須であり、講義・演習において自ら思考、グループでの意見交換、体験を通して対象者のアセスメントを合理的に文章化できるよう指導している。

いずれの科目においても、演習前には解剖生理学の復習および演習内容の実施手順、留意事項や根拠を考え整理するための課題を提示し、演習でその学びを繋げられる方法をとっている。また、事前学習のための動画資料を作成し、学生が援助をイメージしやすいように努めている。授業後は、授業で学習した内容に対する振り返りについて el-Campus あるいは演習記録での提出を課し、自らの学びを整理する機会を設けている。

４．教育の成果

学生は、対象理解および看護実践のための基礎知識・技術を概ね修得できており、授業アンケートや提出物の内容においても肯定的な意見が挙がっている。アセスメントの思考を修得する授業は学生が困難感を抱くことが多いが、前年度以上に記載例を詳細かつ段階的に提示し、また、グループワークによる思考・発表の時間を多く設けることで理解が進んだと感じている。

C-PLATS では、行動力、コミュニケーション力が伸長したと感じる学生が多数を占め、チームでの関係性を構築するとともに主体的に動くという、看護者に必要な態度育成に貢献できていると考える。その他、適切かつ必要な教授項目の選択、明確な資料提示、演習内容やスケジュールの適切さについて肯定的な意見が挙がっており、次年度以降もこれらの面については踏襲しながらより良い教育を実践したいと考える。

大学名：大手前大学　所属：国際看護学部　名前：熊谷　桂子　作成日：2024 年 12 月 28 日

５．改善への努力と今後の目標

前年度と比較し、動画教材とデモンストレーション機会を増やす等の方法で、より具体的な技術修得の方法を提供できるようにした。学生は一定の技術レベルを修得しているが、学習および技術練習への熱量と時間捻出については学生間で差が大きいため、関心を持って自学自習に取り組めるような授業運営を検討する必要がある。基礎看護方法論は技術科目に比べてさらに論理的思考を要する科目であるため、今年度と同様に既習知識を活用しながら、ワークを定期的に取り入れ他者と意見交換する中で対象理解を深め、根拠に基づく看護の意味を実感できるような授業構築を検討したいと考える。

【添付資料】